

令和7年度第1回宗像市産業振興推進審議会会議録(発言者要点筆記)

日時	令和7年10月28日(木)14:00~16:00
場所	宗像市役所 204 会議室
出席者	中野委員、矢原委員 小島委員、嶺委員、八尋委員、
欠席者	中林委員
事務局	【産業振興部】市場(部長)、寺尾(農林水産担当部長) 【ふるさと寄付推進課】山本(課長) 【農林水産課】田村(農林担当課長)、青木(水産担当課長) 川嶋(参事)、永瀬(係長) 【元気な島づくり課】中野(島づくり担当課長)、橋本(航路担当課長) 【産業政策課】藤原(課長)、花田(係長)、緒方

1. 開会

事務局より配布資料の確認

2. 産業振興部長あいさつ

市場部長より挨拶

3. 委嘱状交付

机上にて交付

併せて事務局より会議の成立報告

4. 審議会委員の紹介

各位委員及び事務局より自己紹介

5. 会長、副会長の選任

立候補なし、事務局より提案

会長は中野委員、副会長は矢原委員に就任頂くことで一同了承

会長、副会長より就任の挨拶

6. 諮問

市場産業振興部長より中野会長へ諮問読み上げ

併せて、会議の進め方について事務局より以下2点説明

(1)会議の進め方について

会議の主催者である会長もしくは副会長が会議を取り仕切り、議題の結審については、各委員の意見を会長が集約し、委員全員に確認することで、会議の総意としてまとめる形、これを基本としてよろしいか。

(2)議事録について

会議の議事録は発言者別の要点筆記とする。また事務局が作成した記録を全委員が確認し、必要に応じて加筆・修正し、確定させる方法としてよろしいか。

一同承認

7. 審議

(1) 宗像市産業振興計画の策定について

事務局 (資料3に基づいて説明)

中野会長 計画の策定についての基本的な事項について、質疑等ありませんか。
宗像市産業振興計画の策定について承認いただいてよろしいか。

一同承認

(2) 意見集約状況の報告等について

事務局 (資料4-1に基づいて説明)

中野会長 ヒアリング結果のまとめについて、質疑等はありませんか。

小島委員 後継者、人材に対しての意見がどの分野にも入っている。どのようにしたらこれに対して貢献できるか。

中野会長 それぞれの団体の共通の課題として、後継者不足が挙がっており、後継者をどうつくっていくかというのが横断的な課題との事だが、いかがか。

嶺委員 現状として、廃業になっているケースが多いというのは認識している。それに対して商工会として、商工会ニュースを毎月発行し、情報提供をおこなっているものの、封筒で出していることもあり、なかなか会員さんに封を開けてもらえないという実情がある。そのため LINE を活用した情報発信を予定しており、このような課題に対しては、商工会としても模索している状況。

八尋委員 後継者不足や新規就業者の定着は、儲かるということが必要。給与面でいい収入があれば、両方とも解決するのでは。儲からないことには、なかなか後継者ができにくいというのが現状。

中野会長 儲ければ、後継者育成や人材育成と言わず、生業としてやっていく。後継者を育てるのではなくて、おのずと育っていくのではないか。

小島委員 農業は、農地の維持管理の負担が大きい。これに対しては、行政と連携して、スマート農業等に取り組んでいるが、スピードが遅い。現状、働き世代の方が

多くやめている一方、やめるにやめられない人も多く、農地もほったらかしになっている。活性化機構でも、農地の集積をしているが、大きな農家はこれ以上の集積は難しいという状況。相続相談や農地の問題、資産運用等含めて、税理士さんや弁護士さんに相談できる場があればいいのでは。親子、親戚間では儲からないからやめようという話になっており、切実な問題である。今年の災害時においても、本来であれば、集落で協力しあって復旧作業にあたるが、それができない。農協にも後継者が必要だという相談はくるが、家庭の相続の話までは介入できない。そこに税理士さんや弁護士さんのような資格を持った人たちが相談にのってもらえれば。

中野会長 これは大事な問題。施策の取組の部分で、もう一度提案して頂きたい。
小島委員 儲けるということだけでなく、そこに、夢とか楽しみが必要なのでは。
中野会長 課題は課題で、逃れることなく、答えに直視しながら何かみんなでアイデア絞っていききたい。

事務局 (資料4-2、資料4-3、資料5に基づいて説明)

中野会長 以上の意見集約状況の報告について御質疑等あればお願いします。
嶺委員 アクセスの良さで思うのは、宗像市においては、飲食店の件数に比べて、駐車場が少ない。赤間駅周辺は比較的あるが、特に東郷駅周辺はないので、駐車場に困っているという声がよくあがる。やはり、宗像においては車での移動が必須なため、このあたりが整理されてくれば、飲食店等も増えていくのではと思う。

小島委員 大型商業施設の集客が強過ぎて、中小小売店にお客さんが寄ってこない。どうしたらいいのだろうか。

中野会長 商業統計の大型店と中小小売店の販売額の割合の傾向とか、何かわかるか。大型店の割合が大きく、中小小売店は小さいなど。

事務局 商業統計自体はないかもしれないが、プレミアム付き商品券の実績では、サンリブ等の大型店舗の割合が多い。しかし、プレミアム付き商品券の発行を「全店共通券」と「中小店専用券」に分けたことにより、一定程度、割合が改善したのではないかと考える。また、プレミアム付き商品券をきっかけに今まで利用していなかった、小規模の店舗を使うようになったというアンケートの結果も出ている。ただ、やはりサンリブ等の大型店舗の方が、利便性や品揃えが良く、割合としては大きい。

中野会長 品揃えの豊富さとワンストップショッピングができるという利便性も相まっている。ほかに何かありますか。

矢原副会長 観光の観点で、日帰りのお客さんの滞在が短いというのは、お金を落としてももらえない要因でもあるので重要な課題。インバウンドのゴルフ客に対してのア

アプローチや、富裕層をターゲットにしていく必要がある。沖ノ島の洋上参拝ツアーの評判は良く、今後も定着させていきたい。この他にも、魚釣り体験等の、一泊してもらえそうな組み立てを考えて、滞在時間が長くなるような観光客の誘客をしていきたい。

- 嶺委員 ロケーションも良く、新しい事業者も少し増えてきていると感じるが、糸島などに比べると宣伝、商売があまり上手ではないと感じる。
- 小島委員
事務局 日帰りに特化するのか、もしくは宿泊を増加させたいという意向なのか。
ターゲットの定め方による。事業者の方々にも儲けていただくためには、やはり滞在時間を増やすという事が必要。今来ているの方々だけを狙うという戦略も一つあるが、そのあたりについては、DMO の三か年プランとあわせて、進めながら見直し・補正していく必要があると考える。
- 矢原副会長 観光客の時間の使い方を組み立てる必要がある。宗像大社と道の駅だけでは、次の日まで時間は持たない。宿泊してもらえそうな組立てを作ることが重要。宗像だけでなく、福津を交えて広域的に取り組んでいく必要がある。
- 事務局 広域連携については、これまで我々もアプローチをしているので、筑前玄海地域観光推進協議会等を活用して広域連携に取り組んでいきたい。
- 中野会長 資料 5 の P5 に記載のある、地域内の循環経済率だが、糸島の 61.5%という数値は、福岡市内からの来訪者による外貨の獲得で潤っているという見方で問題ないか。
- 事務局 サラリーマン所得が、糸島より宗像のほうが大きいのではないかと考える。それが、域内で消費されずに域外に流出している割合が高い。糸島の場合は、地元事業者や、市外からの企業が増え、市内で生み出しているにもかかわらず、市外に流出しているのではないかと推測する。
- 小島委員
事務局 域外に稼ぎに行くのではなくて、域内に持ってくるという話の理解で良いか。
域外からお金を呼び込んで、域内で循環させ、域外に出ないようにするというのが適切な表現の仕方だと思う。それは誤解がないように表現を検討する。
- 中野会長 人の流れの問題ではなく、お金の問題ということ。販路は外に求めても、域内にお金は戻ってくるというように。
- 事務局 人にも来てもらいたい、お金も一緒に持って来てもらいたいイメージである。
- 小島委員 流通においては、なるべく近くということで広島に出してみたりするのだけれども、ここで稼いだお金は域内ではなく域外に出てしまっている。
- 事務局 農家が販売した後に仲買通じて最後の小売りの段階で倍ぐらいになったものが、最終的に地元に戻ってきて、さらに倍で購入している状況になっている。これは数の論理で、最も効率的に高く売れる方法だと思うが、域内で流通させるのであれば、倍までいかなくとも、何割増かで直売所で販売することができれば。しかし、ロットが合わないという問題も出てくる。やはり、ここの高付加価値

化のバランスを取るという部分が、難しい点。

- 小島委員 大きな所得を求めるのであれば、ロットを大きくして大型化するしかない。大型化したものが市内で売れるかといわれるとそうではない。道の駅やかのこの里等の直売所の出品者も高齢化で減っており、直売所ではなく、もっと大きいところで稼ぎたいという農家も多い。
- 中野会長 道の駅の買い物客は、出品者の名前を覚えている人も多い。生き締め、野締めの違いもはっきり分かった上で購入している人もいる。ある農家のトウモロコシやトマトを狙って買いに来る人もいる。

(3) 計画の骨子案について

- 事務局 (資料6の第1章～第3章に基づいて説明)
- 中野会長 今説明があった内容について、御質疑と意見あわせてありますか。
- 小島委員 「ずっと住みたいまち宗像」は非常にいいと思う。ただそれだけではなく、事業とかに魅力を感じる人がいない。なんとかそれを形にできないものか。
- 八尋委員 人材確保については、なかなか難しく、水産高校から紹介してもらって、どうか回っている状況。また、最近、二つの業種にまたがっても外国人労働者を受け入れてもいいという制度変更の説明を受けた。外国人労働者を雇う際の助成金や支援制度等はあるのか。
- 中野会長 外国人の雇用促進について何かありますか。
- 事務局 雇用に対しての直接的な補助については、自治体レベルで考えている部分はない。
- 八尋委員 まだ雇うとは決まっていないが、住むところについては県営アパートで対応が可能。外国人を雇うのは初めてでなかなか難しいと感じる。
- 事務局 どういった点において、日本人を雇うのと違いがあり、ハードルがあると考えられているか。
- 八尋委員 水産高校であれば、直接水産高校と話をすることができるが、外国人を雇う場合は、第三者に紹介してもらう必要がある。
- 事務局 斡旋事業者の手間賃に対しての補助や、外国人労働者とつながるマッチングの場をつくるということが必要ということである。
- 八尋委員 説明会に青木課長と川嶋参事も出席していたと思う。
- 事務局 はい。中間業者のマージンももちろんあるが、ビザの関係等で様々な手続が必要ということもある。外国人雇用は5年間というハードルがあるため、入れ替わりも考慮する必要があるというような話であった。
- 事務局 漁業における外国人労働者の雇用においては、シケで漁ができない場合にも、継続的に働ける環境を提供する必要がある。例えば、介護業界であれば、継続的に雇用が発生するが、農業・漁業については、自然の中で作業が成立するの

で、継続性がないという点で、外国人労働者を確保していくということが難しい。そのため、加工業まで含めて考えることができれば、継続的な雇用を生むことができるのではないかと考える。

事務局 商工事業者の中で、そのようなニーズはありますか。
嶺委員 小規模事業者が多いので、そのような声はあまり聞いてはいない。しかし、建設業においては、外国人労働者を雇っているというのを聞く。

嶺委員 「新たなチャレンジ」というワードがあるが、事業者支援の取り組みについては、行政と連携して、説明会や勉強会を開催している。今後もその辺りを深めていきたい。

小島委員 新たなチャレンジをしたい人が、窓口がわからないということもあるのでは。
嶺委員 商工会を利用する人が少ないのが実情。いろんな情報を発信しても、なかなか行き届かない。この情報発信を強化していくためには、行政と連携していくことが必要。5年未満の会員さんを集めて懇談会開催するなどして、取り組んでいる最中。

矢原副会長 調整区域を外すのが一番発展するのでは。簡単な例でいうと福津。海側があれだけ発展して、土地の価格も倍になっている。

中野会長 では、基本方針までは原案どおり進めていく、ということよろしいか。

一同承認

事務局 (資料6の第4章～第6章に基づいて説明)

中野会長 それでは、御意見等、御質問よろしくお願ひします。

小島委員 「九州のひだりうえ」というブランドをつくり、外に売り出していこうとしている。量が多く採れるわけではないが、カリフラワーは品質が高く、評価も良いため売り出していきたいものの一つ。また、宗像市に購入していただいた冷蔵の軽トラック4台を活用することができており、ECサイトも含めて120~130件の配達がある。

中野会長 一つ事務局をお願いしたい。施策の具体的な取組事項をまとめるにあたって、各団体が今おこなっている取組についてヒアリングしてほしい。続いて矢原さんから同じような感覚で、過去、これからの観光について、何かありますか。

矢原副会長 調整区域を外してほしいというのが一番。観光は、滞在時間を長くする旅行メニューを作っていくことが必要。ポテンシャルはあると思うが、宿泊するまでには至っていない。海側だけでなく、山側も含めて、宗像の持っている力を生かした体験で充実させることで、宿泊につながるメニューを作っていきたい。

中野会長 商工会として今力を入れている取組はありますか。

嶺委員 事業承継を進めていく上で、懇談会等を通して幅広く交流を深めている最中。

また、情報発信においては、商工会だけでは難しいため、市と連携しながら進めていきたい。また、市内の事業者が場所を借りて、販売等できるようなところがあれば、販路の拡大にもつながっていくのではと思う。

中野会長 八尋組合長から漁協として今後力を入れていきたいところがありますか。
八尋委員 昨年に続けて実施した魚祭りが、お客さんが多くて困るほど好評だった。来年は役員交代等もあるためどうなるかわからないが、やりたいと考えている。
小島委員 新鮮な魚は魅力がある。
中野会長 御意見を伺うに、施策の方向性の五つに、おおよそ沿った内容かと思われる。骨子案の内容について承認いただいてもよろしいか。

一同承認

(4)その他について

事務局 次回開催日について。1月中旬～下旬を予定。別途日程調整させて頂く。
中野会長 消費生活センターの中林さんが欠席であるため、事務局において、消費者目線での意見を個別にヒアリングをお願いする。
中野会長 以上をもって、令和7年度第1回宗像市産業振興推進審議会を終わらせていただきます。皆さん御苦労さまでした。ありがとうございました。